

3 平成28年度 学年・教科等としての具体的取組

1 学年

- 国語科等で、説明する文章、紹介する文章を書いたり、話したりする時間をもち、表現活動を大切にする。
- 1人で読書をする時間を多くもち、読み聞かせなども進んで行く。読んだ後に、問いかけなどを行うことで、読む力も高める。
- 分からないこと、詳しく知りたいことを尋ねたり、気持ちを表情や態度、言葉で表したりしながら対話するように指導・支援する。

2 学年

- 国語や算数の学習では、できるだけ具体物を用意し、実際に見たり聞いたりつかってみたりすることで理解を進めるようにする。
- 生活科等では、体験学習を通して、自分たちの身近な生活に触れ、身をもって感じられるようにする。
- すべての学習において、話し合い学習を取り入れ、友達の意見を聞いてその内容に沿った質問や感想を述べたりできるように指導する。

3 学年

- 国語の学習の中では書く活動に重点を置き、詩の視写などを通して書くことに慣れ、自分でも文章を書いて伝えることを目指していく。
- 初めて取り組む理科・社会では、観察して比べることや体験してまとめる活動に慣れていくようにする。
- 基礎的基本的な事項を確実に身につけるために、わからないことを素直に聞くことができるように促していく。

4 学年

- 「書く」経験が少ない中で、毎週行うミニ作文から、書く経験を増やし、基本的なルールを身に付けたり、書く楽しさを得られる題材を考えたりする。
- 話の中心をとらえて、感じ方や考えた方の違いを認めていけるようにする。
- グループ学習を取り入れ、自分からすすんで友達とかかわり、集団としてのよさに気付くようにしていく。

5 学年

- 学び合いの中で自分の考えをもち、相手の意見を聞いて広げられるようにするために話し合いをする場面を位置付ける。
- 自他の考えのよさに気づくことができるように話し合うように助言する。
- 関連付けたり分類・整理したりして考える学習と振り返りを計画的に位置付ける。

6 学年

- 1～5で身に付けた話し合いの技能を系統化し、子どもたちが自分からそれらを状況に合わせて使ったり、自己評価したりしながら話し合いができるようにする。
- 曖昧な点を明確にしたり、違った視点を打ち出したりしながら話し合うように指導する。
- 関連付けたり、分類・整理したり、ためmm的に考えたりする学習と振り返りを計画的に位置付ける。

個別支援学級

- 個別の支援計画・個別の指導計画を基に、子ども一人ひとりの実態に合わせ、相手とのコミュニケーションを楽しむ場をつくる。
- 自分の思いをもち、相手に伝えることができる言語活動の充実を図る。
- 子どもに応じた分かりやすい情報を提供するなど、言語環境を整える。